# 高度回遊性魚類調査

# 山根弘士・武田保幸

### 目 的

日本周辺における国際魚類資源の安定的な利用確保のため、科学的データを整備する。

本事業は、国立研究開発法人水産研究・教育機構を代表とした道県水産試験研究機関や大学等で構成される共同研究機関に、水産庁から委託されているものである。

# 方 法

本県はカツオ、マグロ類、カジキ類、サメ類の水揚状況や尾叉長・体重組成等の調査を行った。

カツオについては、ひき縄漁業での水揚量が多い和歌山東漁業協同組合南紀串本地方卸売市場(以下、串本市場),和歌山南漁業協同組合すさみ地方卸売市場(以下、すさみ市場),和歌山南漁業協同組合田辺地方卸売市場(以下、田辺市場)の各卸売業者から水揚量と隻数の情報を収集した。また、串本市場において、ひき縄漁業で漁獲されたカツオの尾叉長を測定した。

マグロ類,カジキ類については,近海まぐろはえ縄漁業の水揚げ基地である勝浦地方卸売市場(以下,勝浦市場)に水揚されたマグロ類,カジキ類の水揚量の情報を卸売業者から収集した。また,ヨコワ(クロマグロ若齢魚)については,ひき縄漁業での水揚げが多い串本市場,すさみ市場,田辺市場に加え,御坊市地方卸売市場(以下、御坊市場)の各卸売業者から水揚量の情報を収集した。さらに,勝浦市場では,水産試験場職員によりまぐろはえ縄漁業で漁獲されたクロマグロを除くマグロ類,カジキ類の尾叉長測定と,勝浦市場職員により測定されたマグロ類,カジキ類の体重の記録を実施した。なお,勝浦市場に水揚げされるクロマグロの尾叉長測定等については,共同研究機関である日本エヌ・ユー・エス株式会社が調査を実施した。

サメ類については、勝浦市場からまぐろはえ縄漁業による水揚金額の情報を収集し、水揚金額から、市場統計 に基づいた平均単価を用いて重量変換し、水揚量を算出した。

### 結果及び考察

### 1. カツオ漁況及び尾叉長組成(図1,図2)

2020 年の串本, すさみ, 田辺市場におけるひき縄漁業によるカツオの水揚量は, 盛漁期である春漁期(3~5月)が 17トン (前年同期比 7%, 平年比 (過去 10 年平均比, 以下同様) 6%)であり, 前年, 平年を大きく下回った。また, 秋漁期( $10\sim12$ 月)は 107トン (前年同期比 736%, 平均比 300%) であり, 前年, 平年を大きく上回った。水揚隻数は, 春漁期が 3,843隻(前年同期比 68%, 平均比 53%), 秋漁期が 3,001隻(前年同期比 324%, 平均比 205%) であった。

2020 年の串本市場におけるカツオの尾叉長測定結果は、1 月は 40cm 台の小型、50cm 台の中型、70cm 前後の大型の 3 つのピークがみられ、2~3 月は中型~大型が水揚げの主体となった。4 月には小型~大型が再び出現した。 5~6 月には、30cm 台の 4 月よりさらに小型が出現し、65cm を超える大型がほとんど出現しなかった。9 月は、30~40cm 台の小型が主体、10 月以降は 40cm 台の小型が主体となり、それが 12 月まで継続した。また、9 月以降は 60cm を超える大型もわずかに水揚げされた。各月の尾叉長モードは、1 月は 44cm、57cm、67cm の三峰型、2 月は 61cm、3 月が 59~61cm、4 月は水揚量が少なく体長組成のモードが不明であった。5 月は 37cm、44cm、54cm の三峰型、6 月が 40cm、46cm、58cm の三峰型、7 月が 40cm の単峰型であった。秋漁期以降の 9~12 月は 42~43cm の単峰型であった。2020 年のカツオは、2019 年では 10~12 月にみられた 50~70cm の中型や大型が 1~6 月にみられ、2019 年 3~7 月にみられた 40cm 台が 9~12 月にみられており、2020 年はカツオの来遊時期が例年と異なるも

のであったと考えられた。

### 2. マグロ類漁況及び尾叉長組成 (表 1,表 2,図 3~7)

### (1) クロマグロ

勝浦市場におけるクロマグロの水揚量は、 2020 年は 113 トン (前年比 132%, 平年比 232%) となり, 前年, 平年を大きく上回った。

また, 串本, すさみ, 田辺, 御坊市場における 2020 年のひき縄によるヨコワの水揚量は 2.4 トン(前年比 39%, 平年比 18%) と, 前年, 平年を大きく下回った。近年, クロマグロの資源管理が実施されており, ひき縄によるヨコワの漁獲量が制限されている。

#### (2) キハダ

勝浦市場におけるキハダの水揚量は,1995年の4,241トンをピークに,2004年にかけて変動しながら減少し,2004年以降は900~1,800トンの間で変動を繰り返しており,2019年は2,088トンと増加したが,2020年は1,001トン(前年比48%,平年比71%)となり,前年,平年を大きく下回った。

勝浦市場におけるキハダの尾叉長測定の結果、1月の尾叉長組成は、76cm、116cm にモードをもつ二峰型であり、 $2\sim4$  月にかけて、同様の傾向となった。5月には 97cm、126cm にモードをもつ二峰型となり、7月まで同様の傾向となった。8月から 12 月にかけては、110cm 前後が主体となり、 $11\sim12$  月には 70cm 前後の水揚げも見られた。

#### (3) メバチ

勝浦市場におけるメバチの水揚量は,1994年から1996年にかけて減少した後,変動しながら緩やかに減少し,近年は横ばい傾向である。2010年以降は,2014年と2019年を除いて1,000トンを下回っており,2020年は971トン(前年比96%,平年比103%)となり,前年,平年並の水揚量であった。

勝浦市場におけるメバチの尾叉長測定の結果,1月の尾叉長組成は,67cm,96cm,119cmにモードをもつ三峰型となり,主体となるサイズが変動しつつも年間を通じて同様の傾向で推移した。8月には,60cm前後の個体がみられるようになり,その後12月にかけて各モードが移行した。

# (4) ビンナガ

勝浦市場におけるビンナガの水揚量は,1998年の11,653トンをピークに,2004年にかけて減少したものの,その後は2012年にかけて変動しながら緩やかに増加した。その後,再び減少に転じ,2020年は4,578トン(前年比83%,平年比63%)となり,前年を下回り,平年を大きく下回った。

勝浦市場におけるビンナガの尾叉長測定の結果,1月の尾叉長組成は,87cm,100cmにモードをもつ二峰型となり,2月には72cmにもモードをもつ三峰型となった。 $3\sim4$ 月には $70\sim90$ cm台が主体となり,5月には74cmと101cmにモードをもつ二峰型となった。6月には70cm台が減少し,100cm台が主体となり,80cm台もみられた。その後,主体となるサイズが変動しつつも12月にかけてこのモードが移行した。

### 3. カジキ類漁況 (表 3, 図 8)

勝浦市場における 2020 年のカジキ類の水揚量は,クロカジキが 293 トン (前年比 65%, 平年比 57%),メカジキが 185 トン (前年比 97%,平年比 76%),マカジキが 239 トン (前年比 90%,平年比 98%)であった。これら 3種が水揚量の多くを占め、一方で、シロカジキは一年間を通して非常に少なく、2020 年の水揚量は 4 トン (前年比 104%,平年比 124%)であった。また、2020 年におけるバショウカジキ、フウライカジキの水揚量は、例年同様ごくわずかであった。

#### 4. サメ類漁況 (表 4. 図 9)

水揚金額から算出した勝浦市場における 2020 年のサメ類総水揚量は,46 トン (前年比90%,平年比56%)であった。このうちアオザメが7トン (前年比108%,平年比78%),ヨシキリザメが14 トン (前年比119%,平年比

47%), ハチワレが 20 トン (前年比 70%, 平年比 62%), オナガザメ類が 4 トン (前年比 115%, 平年比 48%) であり, これら 4 種の水揚量はサメ類総水揚量の 99.8%を占めた。

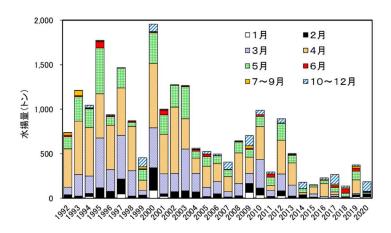


図1 和歌山県主要3市場(串本・すさみ・田辺)におけるひき縄のカツオ水揚量の推移

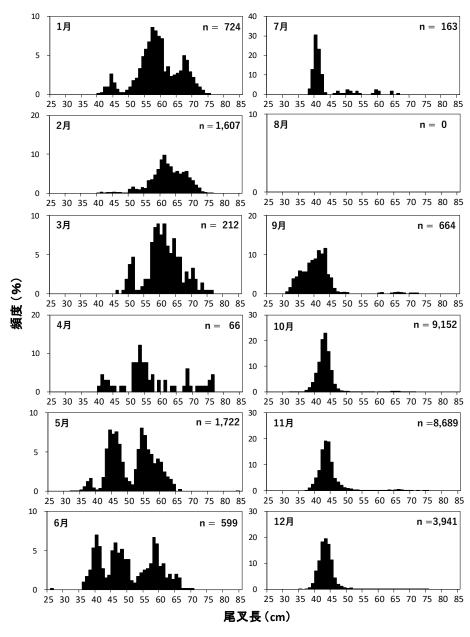


図 2 2020年に串本市場へ水揚されたひき縄によるカツオの尾叉長組成

表 1 2020年の勝浦市場におけるはえ縄のマグロ類月別水揚量

														(kg)
魚種	銘柄	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
クロマク゜ロ	マク・ロ	1,890	2,053	761	72,171	30,832	5,414	0	0	0	100	0	0	113,221
キハタ゛	キハタ゛	64,141	99,643	89,561	70,352	75,165	80,756	112,470	121,182	56,640	85,912	58,016	58,978	972,815
	メジ	3,171	3,135	5,217	864	1,920	1,054	462	1,342	2,073	2,531	4,127	2,640	28,537
メバチ	メバチ	107,786	95,660	77,429	33,165	35,107	11,185	8,261	37,399	58,723	106,385	127,164	222,756	921,018
	ダル	6,908	6,779	7,765	2,626	2,731	1,112	952	1,812	2,446	4,459	5,312	7,319	50,221
ピンナカ	ピンチョウ	637,387	689,849	794,516	262,732	302,921	376,601	205,376	166,971	111,221	235,248	371,634	423,894	4,578,349

<sup>\*10</sup>kg以上は、キハダ、それ未満はメジ

表 2 2020年の主要 4 市場 (串本・すさみ・田辺・御坊) におけるひき縄のヨコワ月別水揚量

													(kg)
市場	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
串本	121	0	0	136	0	0	0	0	0	0	0	10	267
すさみ	109	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	48	365
田辺	277	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	31	371
御坊	929	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	427	1,355
合計	1,436	0	0	408	0	0	0	0	0	0	0	516	2,359

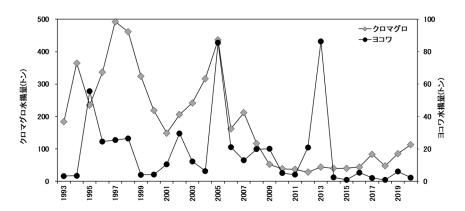


図3 勝浦市場におけるはえ縄のクロマグロ及び主要4市場(串本・すさみ・田辺・御坊) におけるひき縄のヨコワ水揚量の経年変化

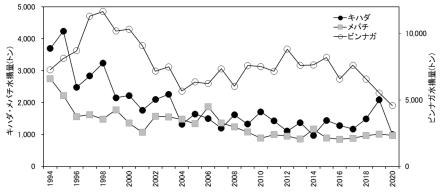


図 4 勝浦市場におけるはえ縄のキハダ・メバチ・ビンナガ水揚量の経年変化

<sup>\*10</sup>kg以上は、メバチ、それ未満はダル

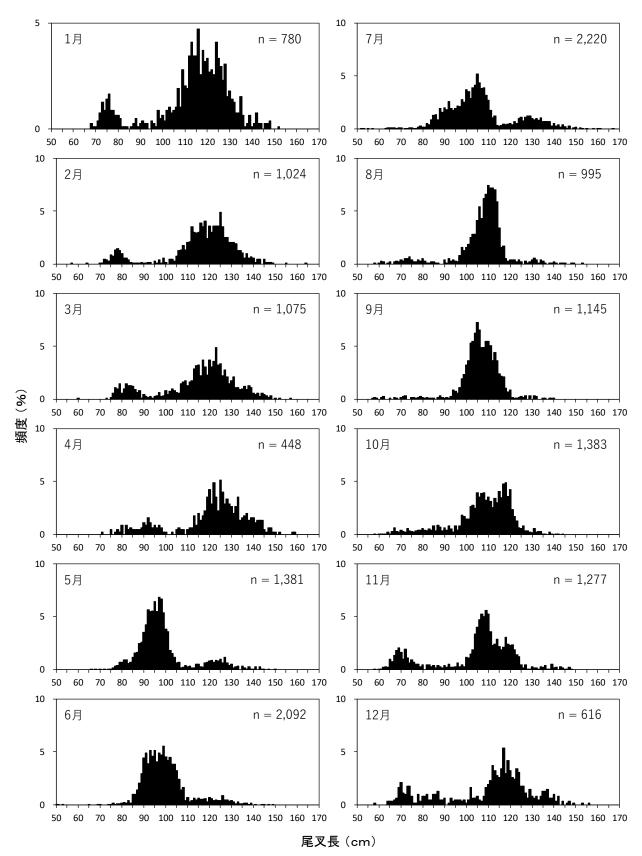


図5 2020年に勝浦市場に水揚されたキハダの尾叉長組成

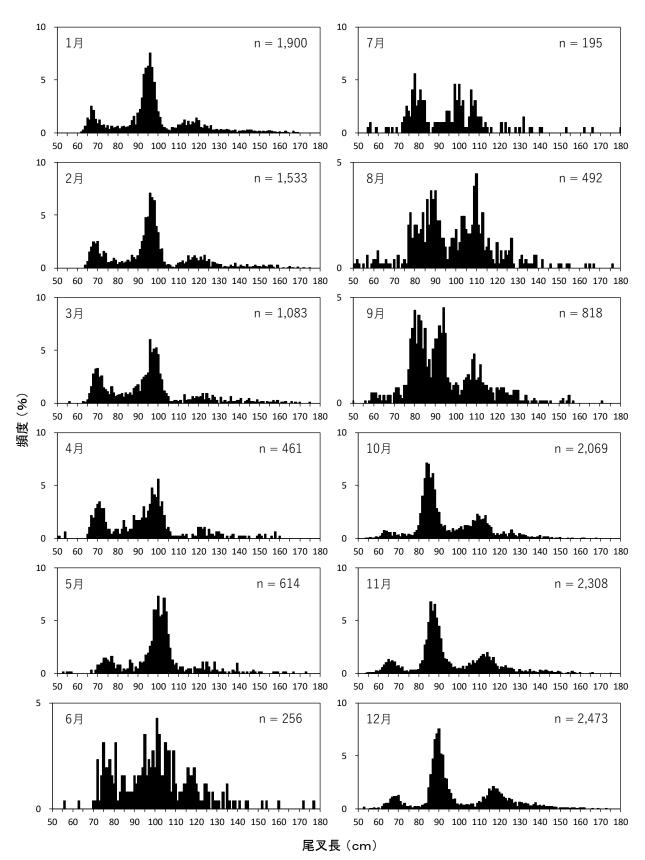


図 6 2020年に勝浦市場に水揚されたメバチの尾叉長組成

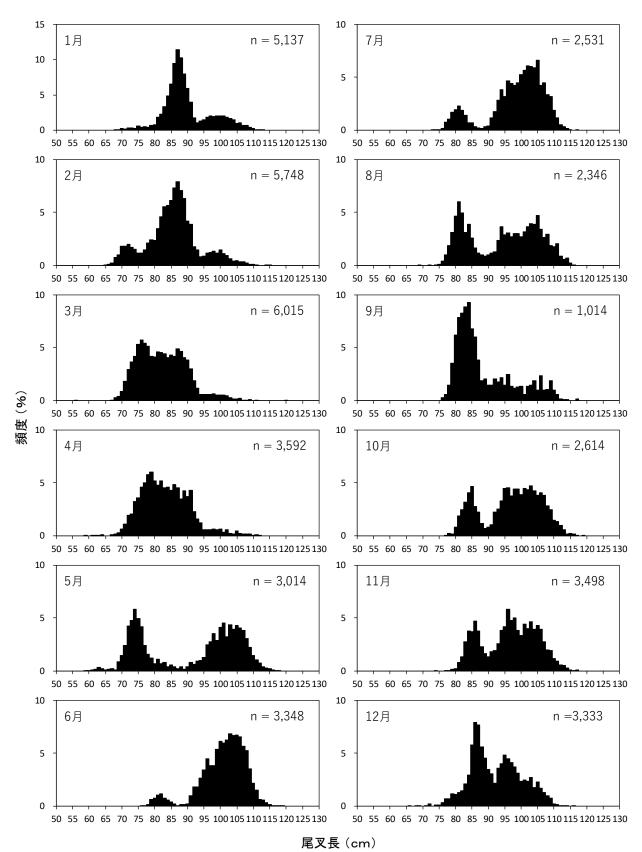


図7 2020年に勝浦市場に水揚されたビンナガの尾叉長組成

表 3 2020年の勝浦市場におけるはえ縄のカジキ類月別水揚量

														(kg)
魚種	銘柄	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
メカジキ	メカジキ	25,256	21,111	24,817	9,681	14,665	20,151	9,913	6,681	5,063	6,752	9,639	31,618	185,348
マカジキ	マカジキ	24,181	32,526	35,881	72,714	28,571	14,291	2,255	2,936	582	729	4,638	19,367	238,670
クロカジキ	クロカワ	11,583	9,935	12,465	13,285	30,066	76,470	43,486	39,752	18,337	21,113	8,170	8,209	292,870
シロカジキ	シロカワ	627	403	219	0	183	0	316	299	238	75	733	1,022	4,114

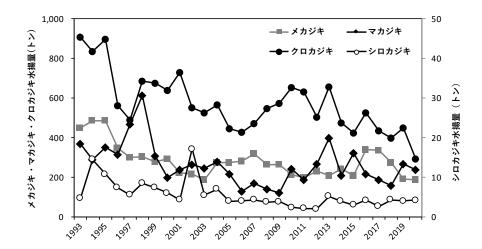


図8 勝浦市場におけるはえ縄のカジキ類水揚量の経年変化

表 4 2020年の勝浦市場におけるはえ縄のサメ類月別水揚量

														(kg)
魚種	銘柄	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
アオザメ	イラギ	969	1,571	1,448	1,108	428	324	153	387	312	194	45	530	7,471
ヨシキリザメ	ヨシキリ	373	309	2,111	513	1,037	525	804	3,951	0	1,645	0	3,186	14,454
メジロザメ類	ヒラガシラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メジロザメ類	トギリ	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	6
シュモクザメ類	カセ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハチワレ	メマル	2,885	2,660	1,805	1,382	964	382	866	1,345	1,059	3,107	1,971	1,744	20,170
オナガザメ類	オナガ	605	691	327	307	159	336	0	186	113	105	80	1,222	4,131
その他	ウトー	1	1	0	0	0	32	0	11	38	9	0	4	96

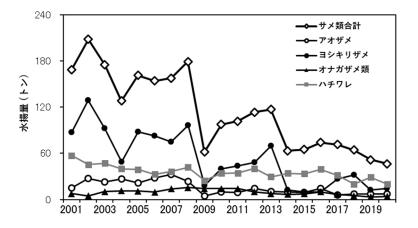


図 9 勝浦市場におけるはえ縄のサメ類水揚量の経年変化